



畑の面積 : 0,92 ha
 Age of the Vines : 40 years
 Average Annual Production : 6 000 bottles
 Grape Variety : Pinot Noir

Localisation

このキュベは、《オー・レア》《オ＝ドシュ・ド・ラ・リヴィエール》《ラ・コロンビエール》の三つの畑から造られる。これらの畑は皆、ヴォーヌ＝ロマネ村の住宅街からほど近いところに位置する。

オー・レア以外の二つの畑の土壌は、石灰質のコングロメラ（礫岩）とオリゴセヌ期の粘土から成っている。鮭（ソーモン）のようにピンク色をしていることから、「コングロメラ・ソーモン」と呼ばれている。一方、《レ・レア》は、バジョース階（ジュラ紀半ば頃）の非常に硬い石灰の上にある。

石灰の塊と混ざりあった泥灰土から生まれるこのワインは、とても優しく、非常にエレガントである。

2013 年はまたしてもブルゴーニュのヴィンヤールたちに手厳しい試練を与える年となりました。

醸造所に健康なブドウを持ち帰るためには、シーズン中、ベト病とウドンコ病との熾烈な戦いを強いられました。

5月という季節を迎えても月間通じて寒々とした雨に見舞われ、そのことが大きく起因して収穫が遅れました。私たちのドメーヌでは10月6日にヴォーヌ・ロマネの畑からブドウを摘み始め、17日にオート・コートで終えました。この年より遅い収穫年とはいえ、1978年まで記憶を遡らなければなりません。

開花後期の天候の崩れが原因で花振るいが多く見られ、殆ど全ての房がミルランダージュとなって小さな粒を纏いました。そのため、平年と比べ収量は30～40パーセント落ち込みました。

しかし、このミルランダージュこそがヴィンテージを救うことになったのです。

7月に暑い日が差した以外はパツとしなかった夏の不順な天候下でも、負担の少ない小ぶりのブドウ房はパーフェクトに熟していつてくれました。

粒が小さく隙間があるミルランダージュの房でなければ、収穫前に続いた数日の雷雨でボトリティス菌が蔓延し、やっとなの目に前にした収穫物が壊滅していたかもしれません。

そして、果汁の少ないミルランダージュだからこそ実現した濃い色。結実不良により種が無かったり種のサイズが小さかったりすることが幸いした、タンニンの突出しないバランスがとれた自然の凝縮。

成熟が遅れ、比較的冷涼な気象状況のもとでブドウが熟成の最終段階を遂げた為、誕生したワインは濃いフルーツのアロマを丸ごとフレッシュに蓄え、夫々のテロワールの個性をくっきりと描いています。



酸のレベルが高いことはワインの長熟性を示し、一方、低いpHで証明されたこの高い酸味は、タンニンがすでに溶け込んでいるリッチなテクスチャに抱擁され、テイasting上ではさほど目立たないのです。

結果として、2013年のワインはすでに誘惑的な魅力を呈し、ハーモニー、バランス、鮮烈な強さと緻密なアロマを持ち合わせています。ポテンシャルが高く、言うなれば1993年に類似する特徴があり、1993年といえど今日飲んででもなお素晴らしい有望なヴィンテージなのです。

プレスレビュー

Sarah Marsh, Winter 2014, The Burgundy Briefing N° 16

One third new wood. Deeper aroma. First impression is of the smooth texture and ripe cherry fruit; full bodied village which combines power and elegance; a firm core with smoothness and depth to the texture and an assured finish. Again a spot on VR village. This was one of the higher pHs at 3.5. The acidity sits in the wine. It is a sweet acidity. Score 16.5.

Allen Meadows, January 15, 2015

Here too there is enough wood to remark on framing the very spicy red and dark currant aromas that display a subtle liqueur-like quality. There is also excellent richness as well as fine mid-palate volume and concentration to the seductively textured medium-bodied flavors, all wrapped in a suave yet firm and mildly austere finale. This is a fine Vosne villages that should reward 6 to 8 years of cellar time.

Bill Nanson, Burgundy-Report, 03/12/2014

The nose is a little more smoky. In the mouth there is a slowly growing width of flavor, almost no gas and a wide and concentrated delivery of fruit flavor of very good weight. Really fine flavors in the finish.

今年で **89+** ポテンシャル **90+** 飲み頃予想 2018~2035

今は香りは閉じ気味。しかし、このワインもそうだけど13年の酸は香りには一切表れてこない。V・Rを造り続けてきたグロさんならではのオーセンティックで正しい香りが漂う。「ザ・ヴォーヌ・ロマネ」と思わず呼びたくなるのだ。口に含むと味は半開。にしても実にきれいでエレガントな液体と味わいだ。明らかに09年まであった濃度感はない。そして、やはり13年で果実味が少し硬い状態。それなのに既に味わいバランスがとれ気味で実に美味しい。(15年06月試飲)